

※ 本記事はブログ記事として提供しています。その範囲のものとして捉えて下さい。

『再構造化』ってナシダ？ -TEACCH 部資料必須-

『 例えスケジュール表を作る時に、シンボルの抽象度って悩みませんか？

「この子には具体物スケジュール？ 写真カードスケジュール？

絵カードスケジュール？ 文字との対提示スケジュール？ 文字のみのスケジュール？」

…って。また、個数（枚数）なんかに着目しても、

「1日分は多すぎるかな？ 半日分なら分かる？ 3行程分？ 1枚カードだけならオッケー？ めくり式だったらいいけるかな？」

なんて考えることはありますか？

『 構造化って物理的構造化・活動の構造化・時間の構造化・ことばの構造化…等々の種類がありますが、

- ・ただ単にパーティションを置けばいい
- ・ただ単に黒板にスケジュールカードを貼れば良い、運動会の行程表の1枚プリントを作れば良い
- ・ただ単にワークシステムを活用した国語・算数の個別の時間を設定すれば良い

…から（そのはじめの一歩を踏み出すことも大切だけれど！！）、一歩個別化を進めて、「その子が誰の手も借りずに、自立して活用できる仕様にすること」が「再構造化」です。

その為にはその子の実態を把握し、再評価し、さらに再構造化するというプロセスを、その子の「自立度」が最大限に達成されるまで繰り返していきます。そして、TEACCH の手法ではその対象は

- ・スケジュール
- ・ワークシステム

になります。（取りあえずは朝の会の一斉提示の「予定カード」から見直してみてはどうでしょう…。）

『 具体的な手順は以下の通りになり、その為には上記図の手引きが必要です。

1. 「スケジュール」であれば

- ① その子が現時点でスケジュールをどれくらい自立的に活用できているか？を観察する。
- ② スケジュールの手助けをどの程度必要としているのか？活動の切り替えの為に他に入っている支援は何か？などを2—3回の授業で把握し、評価する。
- ③ 本書内のスキルエリアのどれに当てはまるのか。視覚的な強調の度合いを上げる、好きな色や絵を使う、本人にとって意味あるものだという子とを伝えるなどの再構造化を行う。

2. 「ワークシステム」であれば

- ① その子が現時点でスケジュールをどれくらい自立的に活用できているか？を観察する。
- ② ワークシステムの手助けをどの程度必要としているのか？活動の切り替えの為に他に入っている支援は何か？などを2—3回の授業で把握し、評価する。この際、本書内の「自立度チェックリスト」を使用する。
- ③ 本書内「スキルエリア」の再構造化欄を参照にして、再構造化を行う。

※ 目標は対象児が最も自立して活用できるワークシステムを考案することである。

